





封

相阿箱根

遠泉軒 大平基

内山愚齋

九月十日

引  
6269  
7



僕はおもひに多めで、母の下へ歸省して、十日間母と共に居る  
且つ泣いて来たので、母の慈みの涙が、まじり  
うすどきもせぬのよ、石川君と共に、あんなたのた  
は親切も有りよ。

僕はおもひに石川君や、婿君は兄と思ふ、あんな  
して居るので、あんなたのた、對しても姉さんと思ひます  
コレから姉さんとして下さるわ。

姉さんの内でも月を見ながら、姉さんの料理は、馳走  
ふたり食した、が、潮意ね、あれは僕には、實にすこし△

△おどかつたよ。

そして、朝飯をたべて、幸徳君を訪ね、兄さんよ、思ふ思ひ  
を、息を、息を、姉さんよ、思ふたやうでした  
十日二十日、おわ。

新宿を、夜、半、鴨の、七日、堂を、清い、夕の、三好、有り、り、  
泊して、婿さん、夜、へ、泊る、夕、(十、四、五、日、の、) 少、白、原、の、友人  
の、夜、へ、弟、を、ま、した。

姉さんお、い、た、の、苦、痛、は、お、ん、な、我、報、か、り、登、る、の、だ  
から、ね、世、の、中、の、空、の、名、空、の、財、う、つ、せ、サ、の、如、き、此、身、を  
捨て、あ、さ、い、片、手、で、の、虚、なる、望、み、を、捨て、新、し、き  
身、と、あ、な、り、な、さ、い、き、つ、と、い、て、か、案、し、く、な、り、ま、す、  
ど、い、そ、個、人、的、解、脱、を、して、そ、い、て、社、会、を、義、子、つ、く  
して、下、さ、い、そ、い、す、れ、は、無、限、の、御、き、が、あ、ま、ま、す、  
お、ん、な、此、身、は、社、会、の、機、體、好、し、う、と、云、ふ、も、自、己、の  
欲、望、を、捨て、い、や、し、ぬ、は、欲、望、を、下、す、コレ、だけ、い、











僕は姉さんといふ事

だがねー若し姉さんよは氣に合ふ女であつたら  
 此つて預載ねー

コレかうもねい物儘を云ふ事かどいそ厄介  
 の事として頼む事

石川君も宜ま言つて下さ

みりし

中山若菜

福田の姉さんへ

